

# MAIL MAGAZINE

メールマガジン

## インドのビザのお話！

### JSC 貿易部ニュース インド編

花便りも伝わる今日この頃。

いつも日本石材センター貿易部のメールマガジンをご覧いただきありがとうございます。

私、2月下旬から3月初旬にかけてインド出張に行っていました。

ということで、今回はインドに行く際に必要となる準備の一つ、ビザの取得についてのお話を少しご紹介したいと思います。

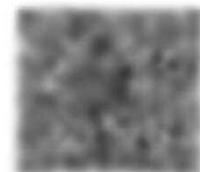


#### ETA for e-Business Visa

Dear SATO [REDACTED]

Your application for Indian e-Visa / ETA has been processed with following result :

Application ID	[REDACTED]
Application Status	<b>GRANTED</b>
ETA Number	[REDACTED]
ETA Issue Date	[REDACTED]



#### Personal Information

Passport Number	[REDACTED]
Name	SATO [REDACTED]
Date of Birth	[REDACTED]
Gender	MALE
Nationality	JAPAN
e-Visa Fee Paid (Excluding Bank charges)	USD 25. Additional bank charges of 2.5% (3.5% in case of PayPal) apply.

#### e-Visa Information

03:43 AM

昔は自分で大使館に行って申請するか、旅行会社をお願いして代理申請するかしかなかったインドのビザ申請ですが、今では ①ビザオンアライバル (到着時ビザ) や ② E ビザ (電子ビザ) といった制度があり、申請もネット内で完結します。到着空港の指定制限はありますが、日本から行く場合、マイナーな空港から入国することは殆どないので、この点は問題ありません。

①の「到着時ビザ」は、現地での交渉に若干の不安が残るのでおいておくとして、出張や旅行のためにビザを取得する際の選択肢は、大体はネットで完結する②の「Eビザ」となるわけですが、これが結構曲者です。ネット上には「このように入力します」という解説見本のページが複数存在するので初めての方でも入力自体は問題ないのですが、何せ入力しなければならない項目が非常に多い。数えると70個弱の項目があります。慣れていても終わるところにはストレスが溜まってきます。

そして、入力ストレスを乗り越えていざ支払へ。これがまた1回で成功した試しがありません。VPNに接続していたりすると100%の確率ではじかれます。さらに一回支払いに失敗すると15分程度のクールタイムが発生してしばらく支払いができなくなります。

また、逆に支払いができていないような画面になるのに支払いができていて、結果、複数回決済される場合もあります…

これらの苦難を乗り越えたらいよいよ申請完了となります。申請完了後は基本的に2日以内にビザが発行された旨の通知がきます。どこかの国のように「入国予定日が先なので近くなるまで処理しません」などというようによくわからないことを言われることもなく安心快適です。

はじめての方だと、あとはインドビザのページに行ってID等を入力して、出てきたビザをプリントアウトし、渡航時に忘れずに持って行く〜で、すべてが完了なのですが、申請が二度目以上の方は少し注意が必要です。

## ～今回の入国時のトラブル～

入国審査官：「パスポートとビザを」

私：「はい、ここに」

入国審査官：「…あなたはインドに来るのが初めてではないですね？」

私：「はい。2〜3ヶ月に一回は来ます。なぜそんな質問を？」

入国審査官：「あなたが提示したビザは3年前のものですから…（にやけながら）」

私：「いまなんと？そんなはずは…」

慌てながらも、周囲の生暖かい空気と、入国審査官の嘲笑の眼差しの前でパソコンをいじること20〜30分。正しいビザを再ダウンロードして提示。

そうなんです。インドビザのページが非常に優秀（？）で古いデータも削除されずに残っているんです！

その結果、昨今の賢いブラウザの「ID等を記録し自動入力する」という機能が駆使され、そこに「出張の達人だから問題ないでしょう」と慢心した人間の油断が合わさるとこんなトラブルが起こります。

慣れているから大丈夫と思う事こそ注意を怠ってはいけません。

「初心忘れるべからず」という格言がインドの空港でリフレインした一幕でした。もしもインドへ行ってみたいなどお考えの方いらっしゃいましたら、そんな私ですがビザ申請等も含め色々サポートいたしますので弊社営業担当を通じて気軽にご相談ください。

## さて今月の石のお話！



↑↑↑ チーム JSC メイドイン India

インド加工でお世話になっている協力工場のメンバーです。

前列左端が社長さん。職人あがりで現場一筋。品質第一の信頼できる社長さんです。

前列右端は、弊社がインドから仕入れる原石の大半を引き受けてくれている、こちらも職人あがり、丁場のオーナーを経て現職にある社長さんです。

後列は左端から順に社長の息子さんでドライバー兼事務担当。今年中に中国語と建築系の先進技術を学びにシンガポールに留学予定です。次が手磨き責任者、造形責任者（ビシャン打ちもできます）、大口径責任者、真ん中のお二方がアシスタント。工場のムードメイカーも兼ねています。機械磨き担当 3 名、造形アシスタント 1 名。後は写っていない統括責任者 1 名と機械磨き責任者 1 名、彫刻+叩き責任者 1 名のチームです。

このチーム最大の特徴は社長自らが率先して動き、時には大口径を回していたり、細かい部品の検品まで活躍するところ。職人上がりの社長だからできる技です。

インドでも、大半の社長はビジネスパーソンで現場は職人任せなのでモノづくりの現場においては得難い存在です。

インドはどうしても日本から遠いので、注文・生産・出港・入荷までとなると 2~3 ヶ月+アルファの納期が掛かってしまいますが、日本石材センターのインド黒製品はお求めやすい値段と高品質が売りです。



安心のインド黒としてお馴染みの「クンナム」ですが、この工場の親族もクンナム丁場に入っており、山との関係性は良好で原石在庫も豊富です。

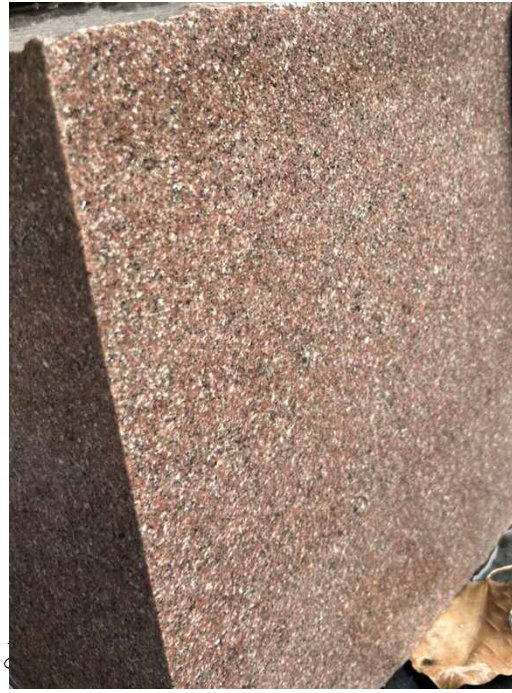
また、「クンナム」と比べて少しお手頃な「LK-01」（A-1タイプ）や結構お手頃な価格の「カルサヌール」も対応可能です。カルサヌールの今の丁場は昔と違ってビリキズの問題は少なくなっていますが、この工場では一回切削してから少し置き場に原石を放置して、その後キズなどが出ていないかを再チェックしているのでビリキズ等の心配もありません。当然、自社の原石在庫はサンクラックを防ぐためシートで覆って養生もしています。

追加情報として、今回の訪問で「才数は少ないけれど数が出る」というような樹木葬用プレートなどに関しても、バハマ、インド黒（クンナム・カルサヌール系）、インドピンク

といった石種で安価に提供できるようご提案もいただいております。

日本石材センターのインド墓石製品、すでにお使いいただいている石材店様も、まだ使ったことがないという石材店様もインド加工をどんどんご用命いただけますようどうぞよろしくお願いたします。

↓インドピンク



それでは、今月のメルマガはここまでとさせていただきます。

季節の変わり目ですが、春の長雨等で体調崩されぬようどうぞご自愛くださいませ。

2025/04/01